

～ 環境省パンフレットより ～
〈2013年9月発行〉
ペットちゃんとの死別について
書かれています。



ペットの老いと向き合う

老いた時こそ、ペットの性格や好みを知り尽くした愛情深い飼い主との時間が、ペットにとっても大切な心の安らぎとなるでしょう。そして、ペットの最期を看取るのは、飼い主の義務であり、ペットを長生きさせたことの努力の証とも言えるでしょう。また、老いたペットの苦痛が激しく、回復の見込みがないときは、かかりつけの獣医師に相談して安らかに眠らせるのも愛情ある選択肢のひとつではないでしょうか。

ペットの最期を看取るのは
辛く悲しいこと…

大切なペットを失い心にあいた穴も、
1つの命と向き合い努力してきた証です。

老いてからも愛情を一杯もらい、
大好きな人に看取ってもらえたら、
ペットにとっても幸せなことでしょう。

まさに「飼い主の勲章」と
言えるのではないのでしょうか

